12/23 ウィンターカップ 2023！

能代科技 72－87 土浦日大

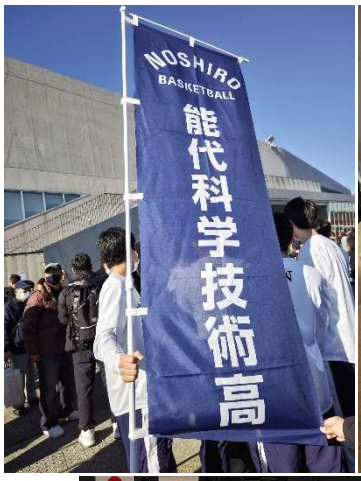
24	1Q	22
14	2Q	16
15	3Q	23
19	4Q	26

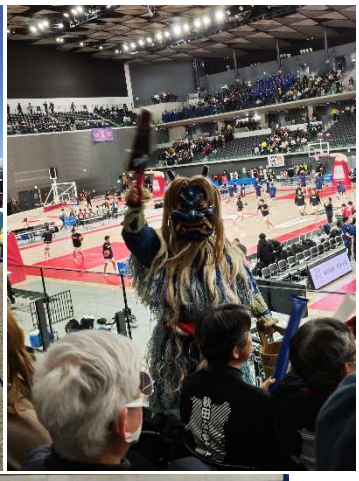
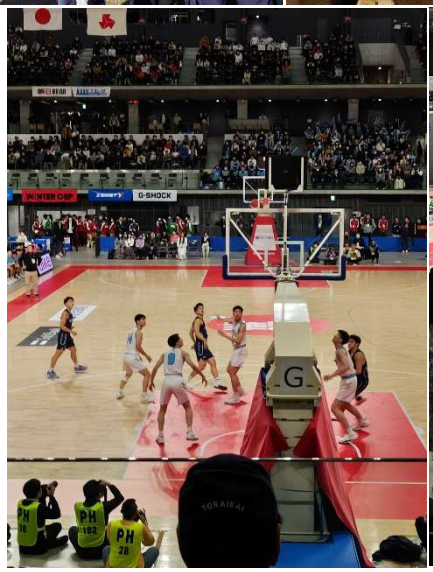
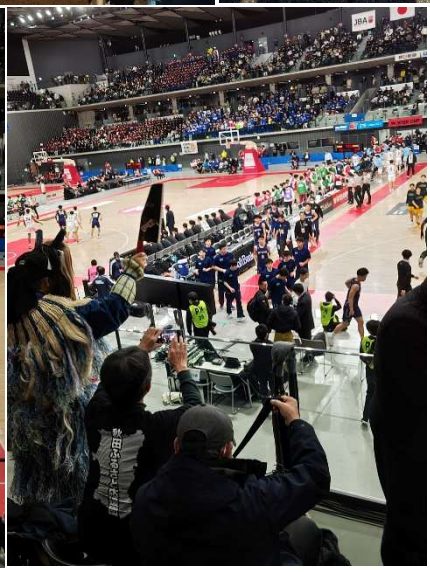
残念ながら、初戦敗退です😤

1987～89 年に 5 度の全国優勝 V29～V33 を果たした

関口聡史さん(スラムダンク：山王工業の河田美紀男)が応援に駆けつけてくれました😀

ご子息の創介君の活躍もありました。



能代科学技術4年連続初戦敗退「統合後初勝利」はお預け

能代科学技術が土浦日大（茨城）に 72－87 で敗れ、4 年連続の初戦敗退。中野珠斗主将（3 年）は 3 点シュート 3 本を含むチーム最多 23 得点、5 アシストでチームを引っ張ったが、「統合後初勝利」は来年にお預けとなった。統合から 3 度目の冬も初戦で敗れたが、中野は前を向いた。

前半はシュートの精度も高く、12 得点と躍動。38－38 の同点で前半を折り返したが、第 3Q 開始から 4 連続失点でリードを許した。秋田出身の深沢桜太（3 年）ら身長 190 センチを超えるビッグマンにリバウンドで競り負け、オフェンスが単発になることもあった。

点差は離されても、まだ終わっていない。「チームを引っ張るのは自分しかいない」と、9 点を追う残り 4 分から速攻などで連続得点をマーク。声を出してチームを鼓舞し、第 4Q 残り 5 分で 1 点差にまで追い上げた。逆転ムードも高まったが、そこからターンオーバーや 3P を許すなど失点も目立ち、最後に振り切られた。小松元監督（50）は「やりたいことを貫いてやろうとしたが、予想以上にサイズもあった。最後はシュートが狂ったのでしんどかった。でもよくやった」とねぎらった。

3 年生 13 人は統合した 21 年に入学。中野は「1 年生の頃はバスケもしたくないし、練習にも行きたくない環境だった」というが、同監督の就任もあり、チームは徐々に変化。先輩と後輩の仲は良く、3P が決まればベンチの選手は立ち上がって喜び、目の前のプレーを全員で楽しんだ。この 3 年間は「楽しかった。きつかったのもあるけど、この 13 人でバスケできたことは思い出になる」。就任 3 年目の指揮官は「いろんな思いがありながら、それに生徒が乗っかってくれたので、まず勝ちたかった。本当に悔しい」。

敗戦を糧に、能代科学技術が新たなスタートを切る。

東籟会
（能代工業高校東京支部同窓会）